

平成 19 年 3 月 23 日

各 位

不動産投信発行者名

東京都港区六本木六丁目 10 番 1 号
六本木ヒルズ森タワー

ジャパン・ホテル・アンド・リゾート投資法人

代表者名 執行役員

鈴木 雅之

(コード番号: 8981)

投資信託委託業者名

ジャパン・ホテル・アンド・リゾート株式会社

代表者名 代表取締役

鈴木 雅之

問合せ先 取締役・管理本部長

鈴木 博之

TEL. 03-6439-0333

2007 年 2 月度の月次開示に関するお知らせ

ジャパン・ホテル・アンド・リゾート投資法人（以下「本投資法人」といいます。）の 2007 年 2 月度の月次総売上げ並びに宿泊部門の客室稼働率、ADR 及び RevPAR を下記のとおりお知らせいたします。本投資法人は変動賃料の支払いを伴うホテルであって、ホテル賃借人から開示について同意をうけることができたホテルについて継続的に月次開示をいたします。

記

項目/年月	客室稼働率 (%)	ADR(円)	RevPAR(円)	売上高(百万円)
神戸メリケンパークオリエンタルホテル	63.3%	13,847	8,764	442
新浦安オリエンタルホテル	81.4%	13,989	11,387	420
なんばオリエンタルホテル	90.2%	9,970	8,991	151
ホテル日航アリビラ	84.8%	17,563	14,901	357

2007 年 2 月売上に関するジャパン・ホテル・アンド・リゾート株式会社（運用会社）からのコメント：

神戸メリケンパークオリエンタルホテルについて

宿泊部門においては、前月に引続き客室改装による売り止めの為、稼働率は前年を下回りましたが、平日用宿泊プランの販売状況が好調に推移した事に加え、引き続き実施しているレベニュー・マネジメントの効果により、前年同月に比較し ADR を上昇させることに成功しました。

レストラン部門においては、客室改装に伴う宿泊客数の減少が影響し、売上げが伸び悩む結果となりました。また、婚礼部門の売上げにおいては、1 人当たりの単価をアップさせる販売政策はその効果を見せておりますが、婚礼件数自体の回復の足取りは重く、引き続き注視していく必要があります。

新浦安オリエンタルホテルについて

暖冬に後押しされる形で、東京ディズニーリゾートへの来場者数は好調に推移しました。

宿泊部門においては、ベビーズスイートの販売が好調に推移した事に加え、インターネットからのダイレクト予約が伸びた事で ADR を上げることができました。

レストラン部門においては、全体的にディナー利用の客数が減少した事に起因し、売上げが伸び悩みましたが、宴会部門においては、企画プランの販売など地道な販売戦略が功を成し、料飲部門全体の売上げ増となりました。

尚、「新浦安オリエンタルホテル」は、平成19年4月1日より、「オリエンタルホテル東京ベイ」として、リブランド・オープン致します。＜詳細は平成19年3月16日付けプレスリリースをご参照ください。＞

なんばオリエンタルホテルについて

大阪市内の主要ホテルにおける稼働率は、前月と同様若干上昇する結果で推移しました。当ホテルにおいては、前年後半より実施しているレベニュー・マネージメントの効果が顕著に表れた事に加え、増加傾向にあるインターネットによるダイレクト予約が好調であったため、ADR、稼働率ともに上昇させることができました。

ホテル日航アリビラについて

2007年2月の航空会社輸送実績は、496,110人（JAL、ANA、SKY 合計）と前年比106.3%と好調に推移しました。

宿泊部門においては、前月に引き続き安価商品の設定を見送り、高単価商品の受注を拡大することによりADRを増加させた事に加えて、個人・団体共に集客が好調であったことから対前年比で稼働率も上昇し、宿泊部門の売上げアップに貢献しました。

宿泊客の施設内での朝食摂食率の上昇や、夕食単価のアップにより、料飲部門の売上げは前年同月を上回りました。

注1) 上記のコメントは運用会社が賃借人から提供を受けた情報に基づいて作成しており、あくまでおおむねの傾向についての参考情報として記載するものにすぎません。コメント中に記載された数値・情報については、監査等の手続を経ているものではなく、運用会社による独自の検証を行ないうる性質のものでなく、個々の数字・内容の正確性・完全性について保証できるものではありませんのでご注意ください。

注2) 各月の数字については監査等の手続を経していないため、各月を合計した金額は、後に提出する半期報告書、有価証券報告書に記載される6ヶ月間及び年間の売上合計と合わない場合もあります。また、各月の売上についても、半期報告書、有価証券報告書に記載される各月の売上と相違する場合があります。

注3) ADR：平均客室販売単価（Average Daily Rate）をいい、一定期間の宿泊部門売上高合計（サービス料を除きます。）を同期間の販売客室数合計で除した値をいいます。

注4) RevPAR：販売可能客室数当たり宿泊部門売上（Revenue Per Available Room）をいい、一定期間の宿泊部門売上高合計を同期間の販売可能客室数合計で除したものをいい、ADRと客室稼働率の積にて計算される数値と同値となります。

注5) 客室稼働率については小数点第2位を、ADR、RevPARについては小数点第1位を四捨五入して記載しています。売上高については、百万円未満を四捨五入して記載しています。

以上

*本投資法人のホームページアドレス：<http://www.jhrth.com/>